北海道・札幌 2030 オリンピック・パラリンピック 冬季競技大会概要（案）更新版

ダイジェスト版

Hokkaido Sapporo 2030 Olympic And Paralympic Winter Games

北海道・札幌
冬季オリンピック・
パラリンピック
の招致を目指しています

Japanese Paralympic Committee

このパンフレットは、北海道・札幌 2030 オリンピック・パラリンピック冬季競技大会概要（案）更新版を短くまとめたダイジェスト版です。

世界が驚く、冬にしよう。

誰も見たことがないような、新しいオリンピック・パラリンピックで、世界中の人々を驚かせたい。

天然雪に恵まれた舞台から生まれる、アスリートたちの卓越したパフォーマンス。
地球を守り、自然と美しく調和する、これからの都市と暮らしの在りかた。
あらゆる違いを尊重し、認め合う社会。
これらを実現し、世界と分かち合う。

これまでの常識を超えたオリンピック・パラリンピックに、みんなで挑戦し、ともに作りあげていきます。

3つの大会コンセプト

- 天然雪を守り、北海道・札幌から、世界に誇れる大会に。
- 私が自分らしく生きられるまちで、社会で、誰もが参加できる大会に。
- 北海道・札幌が挑戦する、私たちの新しい大会に。

皆さまへ

オリンピック・パラリンピック。
一流のアスリートたちが、鍛えぬいた身体と磨き上げた技術で競い合うこの世界最大のスポーツイベントは、まち全体を独特の熱気と興奮で包み込み、人種、年齢、性別、障がいの有無等に関わらず、人々に夢と希望、そして感動を与えてくれます。
新型コロナウイルスの影響により１年延期して開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、そして北京2022オリンピック・パラリンピック冬季競技大会は様々な制約がある中の開催でありながらも、自らの限界に挑戦するアスリートの姿が世界中に勇気と感動をもたらし、「世界と未来を変える力」を再認識する機会となりました。
2022年、札幌市は、市制施行から100周年という大きな節目を迎えました。
2030年の初めてのパラリンピック、そして２度目のオリンピック開催に向けた一連の取組は、50年後、100年後のまちの礎となり、未来を切り拓いていくためにも重要なものであると考えています。
今年の３月に実施した市民・道民向けの意向調査の結果からは、特に10～20代の若い世代から招致に賛同する声をいただいていることが分かりました。2030年にまさに世の中を牽引しているこの世代を、さらに勇気づけ、後押しとなる大会とすることを目指してまいります。
大会招致の実現には、皆さまのご理解、ご協力が必要不可欠です。今後も、私たちは皆さまと丁寧に対話を行い、様々な機会を通じてご意見やご意向を確認しながら計画を検討していくとともに、大会招致および開催に関する取組においては、しっかりと透明性・公平性を確保しながら進めてまいります。
「北海道・札幌にオリンピック・パラリンピックを」、大会の開催とそれに向けた取組が、将来にわたって札幌のまちが輝き続けるきっかけとなることを確信し、大会の開催を目指してまいります。
令和４年（2022年）11月

札幌市長　秋元克広

札幌らしい持続可能なオリンピック・パラリンピック

～人と地球と未来にやさしい大会で新たなレガシーを～

スポーツによる健康で活力のある社会

スポーツ・健康

2030年 みんなが健康であり続けるまちに

【具体的な取組】

- ●日常の運動量増加に向けた取組強化
  （ウォーキングの推進等）
- ●子どもの運動習慣づくり
  -プレーパークの推進
- ●ウォーカブルシティ
  （居心地がよく、歩きたくなるまち）の推進
  -誰もが安全安心・快適に回遊できる
  地上・地下の重層的な歩行者ネット
  ワークの整備

大会の効果

オリパラの機会を活用して
スポーツを始めよう！と思う人が
増加するような取組を
官民共同で加速化

レガシー LEGACY

ウォーキングにとどまらず冬季スポーツ参加
人口増加により健康寿命が延伸

目標

- ●2030年までに健康寿命を2016年比で2歳以上の延伸
  （2016年：男71.34歳、女72.89歳）
- ●2030年までにウインタースポーツ実施率30%（2019年：18.6%）

全ての人にやさしい共生社会の実現

社会

2030年 誰もが暮らしやすいまちに

【具体的な取組】

- ●生活関連経路のバリアフリー化
- ●一部駅において
  再生可能エネルギーを
  利用したヒーティングの導入
- ●心のバリアフリーにおける
  企業や地域の取組に係る
  認証制度の導入

大会の効果

札幌初のパラリンピック開催が
バリアフリーの行政・民間投資を誘発

大会前後のパラアスリートとの
交流を通じて
障がい者理解が促進

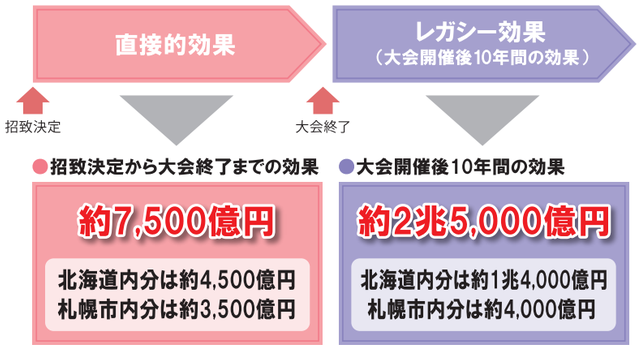
レガシー LEGACY

まち全体のバリアフリーが加速するとともに、
心のバリアフリーが実現した誰もが
暮らしやすいまちへ

目標

- ●2030年までに生活関連経路のバリアフリー化率100%
  （2020年末時点：84%）
- ●2030年までにまちのバリアフリー化が進んでいると感じる
  市民の割合70%（2020年：32.2%）

大会の経済効果



世界に躍進する魅力あふれるまちづくり

経済・まちづくり

2030年 世界中から訪れたくなる憧れのまちに

【具体的な取組】

- ●スキー場の魅力向上
- ●冬季観光コンテンツの充実
- ●ブランド力向上や周遊促進に
  向けた事業者連携の推進

大会の効果

世界中が注目する
オリパラの機会を活用して
北海道・札幌ブランドを
世界中に発信

レガシー LEGACY

大都市スノーリゾートとしてのブランドを
確立し、 年間を通じた国内外からの
観光需要増加

目標

- ●2030年の年間来客数　2,000万人（2018年度：1,585万人）
- ●2030年の札幌市内での総観光消費額を8,000億円（2018年：5,780億円）

次世代が豊かな自然を享受できるまち

環境

2030年 ゼロカーボンで世界をけん引するまちに

【具体的な取組】

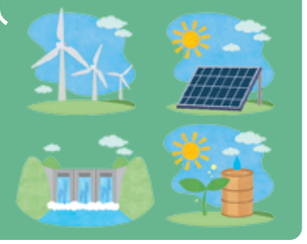
- ●新築施設のZEB化や
  再生可能エネルギーの導入拡大
- ●道内で生み出される再エネ電力の
  市内利用

大会の効果

大会のショーケース的な役割と
クライメートポジティブな大会が
世界の最先端環境技術を集積させ、
まちの再エネ導入が促進

レガシー LEGACY

大会で再生可能エネルギー利用の社会実験を
実施し、積雪寒冷地における新たな環境技術
を積極的に導入



目標

- ●2030年に温室効果ガスを2013年比で59%削減（2013年排出量：1,304万t-CO2）
- ●2030年に市内の電力消費量に占める再生可能エネルギーの割合を50%（2016年：29%）
- ●2030年にZEB相当以上の省エネ性能をもつ新築建築物の割合を80%

Hokkaido Sapporo 2030
Olympic And Paralympic
Winter Games

オリンピック Olympic

※北京2022大会の競技・種目を参考に想定

開催期間 **2030年2月8日(金)～24日(日)の17日間(想定)**

競技数 **7競技109種目**

パラリンピック Paralympic

※北京2022大会の競技・種目を参考に想定

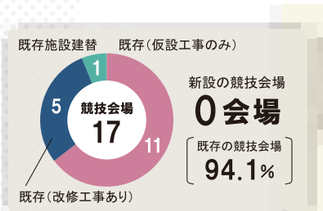
開催期間 **2030年3月8日(金)～17日(日)の10日間(想定)**

競技数 **6競技80種目**

会場配置計画

〈札幌ならではの会場配置計画〉

- 札幌1972大会時の会場等、すでに市民利用されている施設を最大限活用します。
- 都心の近くでウインタースポーツを楽しめる、札幌の特徴を活かします。
- 樹木の伐採等は、競技に必要な最小限の範囲内におさめ、環境保全に努めます。



番号	会場	競技種目等(■:オリンピック ▲:パラリンピック)
競技会場		
1	西岡バイアスロン競技場	■バイアスロン ▲パラバイアスロン／パラクロスカントリースキー
2	長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)	■ボブスレー・ボブスレー ボブスレー・スケルトン／リュージュ
3	月寒体育館	■カーリング ▲車いすカーリング
4	新月寒体育館	■アイスホッケー1 ▲パラアイスホッケー
5	真駒内公園屋内競技場	■アイスホッケー2
6	スポーツ交流施設コミュニティドーム(つどーむ)	■スケート・フィギュアスケート スケート・ショートトラック
7	帯広の森屋内スピードスケート場	■スケート・スピードスケート
8	大倉山ジャンプ競技場	■スキー・ジャンプ スキー・ノルディック複合ジャンプ
9	白旗山競技場	■スキー・クロスカントリースキー スキー・ノルディック複合クロスカントリー
10	ニセコエリア	■スキー・アルペンスキー(滑降、スーパー大回転、複合) ▲パラアルペンスキー
11	サッポロテイネスキー場	■スキー・アルペンスキー(大回転、回転)
12 13	札幌国際スキー場	■スキー・フリースタイルスキー／スキー・スノーボード(スロープスタイル、パラレル大回転、クロス) ▲パラスノーボード
14 15 16	さっぽろばんけいスキー場	■スキー・フリースタイルスキー／スキー・スノーボード(ハーフパイプ、モーグル、エアリアル)
17	市内既存施設	■スキー・フリースタイルスキー／スキー・スノーボード(ビッグエア)
非競技会場		
0+C M P	札幌ドーム	■開会式／閉会式／メダルプラザ ▲開会式／閉会式／メダルプラザ
MPC	札幌コンベンションセンター	■メインプレスセンター
IBC	新展示場	■国際放送センター ▲国際放送センター(メインプレスセンターの機能を含む)
OV1	市営住宅月寒団地	■選手村 ▲選手村(選手村から離れた競技会場を利用する選手のため、OV1、OV2とは別に既存ホテルを活用した選手用宿泊施設を配置予定)
OV2	アパホテル＆リゾート〈札幌〉	

※この計画は現時点での予定です。今後、変更となる場合があります。
※スキー場については、フィニッシュエリア別に会場数をカウントしています。

施設整備費(本設費用)の試算

〈施設整備費のポイント〉

- すでに使われている施設を今後も使っていくための更新・改修のみを実施し、大会のためだけの新しい施設は設けない計画とします

施設整備費合計	札幌市実質負担額
770億円	490億円

札幌市所有の施設の建て替えや改修のための費用として札幌市が負担(一般財源＋市債)するもの

約30年間で札幌市実質負担額を支払うと仮定した場合
市民一人当たり年間で 約900円の負担

■主な施設整備

【新月寒体育館】400億円(札幌市負担:220億円)

月寒体育館を建て替えることにより、プロスポーツの観戦環境を充実し、スポーツを「みる」機会を拡充する。
また、屋内スポーツの国際大会の誘致機会を拡大できるとともに、市民が利用できる環境を創出する。

【大倉山ジャンプ競技場】90億円(札幌市負担:90億円)

大倉山ジャンプ競技場にノーマルヒルを併設してリニューアルを行うことにより、国際大会の誘致を促進するとともに、観光施設としての魅力アップを図る。

【市営住宅月寒団地】190億円(札幌市負担:110億円)

月寒地区の市営住宅を集約して建替え、大会時には選手村として活用し、大会後に市営住宅として引き続き使用する。

大会運営費(組織委員会予算)の試算

〈大会運営費(組織委員会予算)のポイント〉

- 原則、税金は投入しない計画とします
- 収入に見合った効率的な大会運営に努めます

国内・国外　収入　2,200～2,400億円

【IOC負担金・TOPスポンサー収入】	【国内スポンサー収入】	【チケット収入】	【ライセンシング収入・その他】
920億円	800～1,000億円	240億円	240億円
IOCが契約している放映権料などの収入やTOPスポンサー収入が組織委員会に配分される。	各スポンサーがオリンピック・パラリンピックの価値に共感して提供。協賛金と現物支給がある。	競技観戦チケットの売り上げ。	グッズ販売などにより得られるライセンシング収入、寄付など。

組織委員会

開催地　支出　2,200～2,400億円

【仮設費】	【その他運営費】	【予備費】
630億円	1,370億円	200～400億円
・屋外競技の仮設照明設置 ・仮設観客席の設置 など ➡大会後には撤去する一時的な増強	・セキュリティ(会場の警備など)費用 ・組織委員会職員の人件費 ・通信インフラの構築やシステムの更新費 ・大会関係者の輸送費 など	・不測の事態の備え

国内外から集まるお金で大会を開催し、北海道・札幌市での消費が促進

透明性・公正性の高い組織運営の実現に向けて

- 2022年9月8日にJOCと札幌市が連名で大会の組織及び運営面における改革に取り組んでいく決意を示すための宣言文を発表。
- 2030大会の組織委員会を設立する際には、以下の事項等について検討し、組織運営における透明性・公正性の確保と対外的な説明責任を果たすための体制を整える。
  (1)組織委員会理事会について (2)利益相反取引の管理について (3)マーケティング事業の在り方について

2030

JSF2021発承諾第32号

世界が驚く、冬にしよう。

JSF2021発承諾第29号

みんなで冬季オリンピック・パラリンピックを北海道・札幌に。

©アフロスポーツ/JOC

札幌市の冬季オリンピック・パラリンピック招致に関する取組については
下記URLまたは右のQRコードからご覧ください

https://www.city.sapporo.jp/sports/olympic/menu.html

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です

令和4年(2022年)12月発行

編集・発行
札幌市スポーツ局招致推進部調整課

〒060-0002
札幌市中央区北2条西1丁目 ORE札幌ビル9階
TEL.011-211-3042　FAX.011-211-3048

さっぽろ市
02-E02-22-2262
R4-2-1432

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した紙を使っています。